

**事業所名 グループホーム町屋**  
**運営推進会議開催報告書**

開催日時 2025年 6月 24日(火)	
参加者	議 題
利用者 0名	① 行事報告
利用者家族 0名	② 行事予定
地域住民の代表者 0名	③ 身体拘束適正化検討委員会
市職員 1名	④ 高齢者虐待防止検討委員会
地域包括支援センター職員 1名	⑤ 質疑応答
事業所 3名	⑥ 次回開催日
会 議 録	
<p>① 行事報告</p> <p>◆母の日…おやつ時に母の日会を行いました。おやつには、あんみつと杏仁豆腐を提供させていただきました。また、日頃の感謝を込めてメッセージカードとカーネーションをプレゼントさせていただきました。(5月12日、1号館)</p> <p>おやつには、あんみつとカステラを提供させていただきました。母の日会では日頃の感謝を込めてメッセージカードをプレゼントさせていただきました。(5月11日、2号館)</p> <p>◆避難訓練…今年度1回目の避難訓練がありました。今回の避難訓練は、昼食の準備時に台所から火災が発生したという想定で行いました。利用者様方には、施設内から屋外へ避難していただきました。職員は初期消火訓練、避難誘導訓練を行いました。訓練開始より、1号館は6分32秒にて、2号館は4分30秒にて全利用者様の避難が完了しました。(5月16日、1・2号館)</p> <p>◆食事レク…利用者様にお手伝いしていただき、夕食のハンバーグ作りをし提供させていただきました。(6月11日、1号館)</p> <p style="text-align: right;">利用者様にお手伝いしていただき、昼食の餃子作りをし</p>	

提供させていただきました。（6月13日、2号館）

- ◆誕生日会…おやつ時に誕生日会を行いました。バースデーケーキを提供させていただきました。（5月22日、2号館）

おやつ時に誕生日会を行いました。フルーツみつ豆を提供させていただきました。（6月16日、2号館）

- ◆感染対策訓練…今年度1回目の感染対策訓練がありました。今回の感染対策訓練は、「消毒液ついて」を行いました。訓練では、正しい手指消毒の仕方、感染症別にアルコール消毒または、次亜塩素系酸のどちらを使うか、嘔吐時などの消毒液の作り方、防護服がない時の代用品の作り方などを実践し学びました。

## ② 行事報告

- ・7月 七夕、誕生会（1号館）
- ・8月 夏祭り

## ③ 身体拘束適正化検討委員会…「スピーチロックによる身体拘束を行わないための介護」

### 1. スピーチロックとは

言葉によって身体的、または精神的な行動を抑制することです。「言葉の拘束」とも言われており、介護の現場でよく使われることが多い。「ちょっと待ってて」や「危ないから席に座ってて」などの言葉が該当します。スピーチロックは見た目的な変化なく、誰でもいつでも行ってしまう恐れがあるのが特徴。

### 2. 介護施設の現場でスピーチロックが起きてしまう原因

- ・人手不足で余裕がない

人手不足の介護施設では、介護職員一人一人への負担が大きくなります。少ない人数で業務をこなし、利用者様の見守りなども行わなくてはならないため、余裕もなくなりやすいです。利用者様が何か頼みごとを

したいと思った時にすぐに対応できないことも多く、そのような際にスピーチロックにあたる声掛けをしてしまいます。

- ケアの対応が重なってしまう

介護施設では、多くの利用者様が入居されており、ケアの対応が重なってしまう事がよくあります。その際、「ちょっと待ってて」と声掛けしてしまいそうになりますが、これもスピーチロックにあたってしまいます。

- 転倒リスクの高い利用者様が動かれる

車いすに座っている方が立ち上がろうとして車いすを動かしていたり、付き添いの必要な方が一人で歩いていたりと転倒リスクの高い利用者様が動かれる事があります。その際に、「危ないから座ってて」「一人では動かないで」などと声掛けしてしまう事は、安全を思っている言葉だったとしても、スピーチロックにあたってしまいます。

### 3. スピーチロックが相手に与える影響

- 行動意欲や ADL の低下

行動意欲の低下につながる原因として、強い口調での声掛けや長時間待たされることが挙げられます。また、スピーチロックによって身体的、精神的な行動を抑制されるとマイナスな感情も発生しやすくなります。利用者様が意思表示をしたり、行動を起こす機会が減ってしまう事は、ADL（日常生活動作）の低下にも繋がりがねません。利用者様の行動意欲や ADL を低下させない声掛けを意識することが大切です。

- 認知症を患う高齢者の症状の悪化

認知症を患う高齢者の場合、言われたことは忘れてしまっても、感情は強く残ります。「無視された」「ひどく怒られた」など、そのときに抱いた感情は、被害妄想やせん妄（高齢者に多く発症する一種の意識精神障害のこと）に繋がりがねません。介護職員への拒否が強くなったり、症状が悪化してしまう事もあります。症状の悪化を防ぐためにも、利用者様にストレスを感じさせないような声掛けをする事が必要です。

・介護職員とのコミュニケーションにおける問題

人手不足の施設で業務が多く、一人一人へのケアが行き届かない状況では、介護職員の余裕もなくなってしまいます。しかし、余裕がないからといって、スピーチロックをし続けてしまうと、利用者様からの信頼を損なってしまいます。そうすると、コミュニケーションにも大きな影響を及ぼし、利用者様が安心して生活することが難しくなってしまいます。利用者様を一人の人間として尊重する気持ちで、ケアを行うことが大切です。

4. スピーチロックを防ぐための取り組み

・利用者様の立場になって考える

「この声掛けをしたら、どんな気持ちになるだろう」と、常に利用者様の立場になって考え、自分がされて嫌な気持ちになる声掛けは、きっと相手も同じような気持ちになります。また、日常的に一人の人間として尊重し、コミュニケーションを取るようになっています。

・声掛けする際に、言い換え表現を意識する

抑制する表現	納得していただく表現、目的を伺う表現
ちょっと（少し）待ってて！	後〇分待っていただけますか。 次、行きますからね。
座ってて！	どうされましたか？

声掛けの際に、言葉の言い換え、語尾を柔らかくする事を意識する。抑制する表現ではなく、具体的な時間、内容、目的を聞く、納得してもらえそうな声掛けをしています。また、目的を説明出来なくても、トイレに行きたいのではないか？、パットが濡れて気持ち悪いのではないか？など、個々の利用者様にあった理由を考える様にしています。

・研修や会議などを行い、職員の理解を深める

定期的に研修や会議などを行い、スピーチロックへの理解を深める機会を作っています。職員が意識を持ち情報共有をする事でサービス向

上にも繋がります。

## 5. まとめ

スピーチロックは、見た目的な変化がなく、3つのロックの中でも特に注意が必要です。スピーチロックが利用者様に与える影響は大きく、認知症の悪化やADLの低下を招いてしまいます。普段から言い換え表現を意識し、研修などを行い、スピーチロック防止を図っていきたいと思います。今の声掛けはスピーチロックになっていなかったか。」と考えケアを行う事が大切です。また、利用者様を一人の人間として尊重し、相手の立場を考えた声掛けを意識し、スピーチロックを行わないケアに取り組んで行きたいと思います。

### ④ 質疑応答

- 感染症対策として常に準備している物がありますか？  
→手袋、消毒スプレー（アルコール・次亜塩素酸ナトリウム）、防護服など常備しています。次に、食中毒対策としては、手洗いの後、次亜塩素酸ナトリウムによる手指消毒や食卓の消毒を毎食前に行っています。また、毎食時に調理器具を次亜塩素酸ナトリウムによる消毒、1日1回の熱湯消毒もしています。食事は提供後、1時間を目安に下膳しています。
- 避難訓練は何回していますか？  
→毎年、5月と9月に年2回実施しています。
- 今回は火災からの避難訓練以外に何か避難訓練を行っていることはありますか？  
→地震からの火災を想定とした避難訓練も行っています。
- 今回の避難訓練した時の課題はありますか？  
→災害時は普段歩いている人でも車椅子を使用した方が早く誘導できることが分かっていますが、常備している車椅子が2台しかないため、車椅子の回し方をどのようにしたらいいか検討することが改めて必要だと感じました。

- 事業所内で身体拘束に関する研修はしていますか？  
→2024年は、11月と3月に実施しています。今後も、毎年2回を予定しています。
- 身体拘束適正検討委員会の内容はどのようにスタッフに周知していますか？  
→毎月1回開催している施設会議や入社時にオリエンテーションを行い、身体拘束や高齢者虐待について説明し周知しています。また、身体拘束適正化検討委員会の議事録があり、職員がいつでも閲覧できるようにしています。
- 介護事故はありましたか？  
→転倒による圧迫骨折やエスケープがあり、市役所に報告させていただきました。

⑤ 次回開催日 2025年8月26日（火） 14：00～